

事業計画書

1 事業名称		障害者通所施設の休日を利用した成人障害者の余暇活動支援	
2	(1) 事業の目的	<p>成人障害者の余暇活動支援を、区の施設の有効活用と併せて実施したい。 放課後等デイサービスがある学齢期は、学校と家庭以外の場所で幅広い社会性を獲得したり人間性を豊かにする機会があるが、成人以降はそのような公的制度がなくなってしまう為、職場（通所先）と家庭の往復に終始し、生きがいを見失ってしまう障害者は多い。よって、仲間との交流や、自分を解放できる活動が出来る機会の設定に重要な意味がある。</p> <p>一方で、区立障害者通所施設は休日の利用が無い為、空きスペースになり勿体ない状況である。よって通所事業が休みの日は他の活動で利用することで社会資源を有効活用出来る。</p> <p>この二点の課題に併せて取り組む事業を行いたい。</p>	
	(2) 事業の内容 * 実施体制や実施手法を含めて記入すること。	<p>「成人の障害者と、その家族・支援者、そして、障害の有無を問わず地域住民」を対象に 「参加する側は、障害者は当事者と支援者の組み合わせ、その他一般は任意。提供する側は、活動内容の専門スタッフ1~4人と、補佐するスタッフ1~4人」という体制で 「60~90分のプログラムを、午前と一回・午後と一回」という一日の配分で、 「①創作アート②音楽プログラム③室内スポーツ」として三回（三日）行う想定。</p> <p>① 創作アートは、手作りで持ち帰りが出来る何がしかの工作を行う。 ② 音楽プログラムは、一緒に楽器を演奏したり、演奏やコンサートを楽しむ。 ③ 室内スポーツは、ボッチャ etc。</p>	
	(3) 令和5年度事業完了予定日	令和6年2月29日	
3	(1) 区の担当課	障害福祉部 障害者地域生活課	
	(2) 協働する意義・必要性	<p>障害者の余暇プログラムの提供のためには、場所の確保が必要になるが。区内には障害のある方には使いやすい通所施設が点在しているにもかかわらず、原則として月~金曜日以外は施設利用は認められていない。</p> <p>区は余暇プログラムを実施している団体と協力をして、施設管理面における個人情報保護や備品管理、衛生管理のほか、鍵の受渡しやプログラム実施中の事故等が起きた場合の課題等を整理する。</p>	
	(3) 役割分担 提案団体	プログラムの計画・広報・実施・振り返り	

[令和5年度提案型協働事業 様式]

	区担当課	<p>参加団体の調整 協働事業の広報活動 活動場所の調整及び提供（区立世田谷福祉作業所および区立給田福祉園が候補） プログラム実施の際の施設との関係調整及び管理 事業実施後の将来に向けての分析及び課題把握</p>
	(4)地域の団体との連携	
4 協働の成果・効果	(1)期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	<p>(団 体) 今後、成人余暇活動支援を行う際、休日の区立通所施設の利用が検討できることで、成人の支援をより充実できる。 区立施設という性格上、他の場所での活動では接点が生じにくかったであろう地域住民等へのアプローチがより可能になり、区民の障害者理解を深め、相互の関係性を構築することができる。 効果の測定に関しては、参加者・スタッフ等関係者からアンケートを集計する。 施設の利用、活動の内容、人員体制、集客、危機管理、等をアンケートにてヒアリング。</p>
		<p>(区担当課) 団体からの利用者アンケートによるフィードバックを受け、区民のニーズを図るとともに、様々な施設で実際使用することで新たな課題の整理が可能となる。 また、施設側では、休日等の外部利用についての課題が整理できる。</p>
	(2)事業の成果の活用方法、将来の展開	<p>(団 体) 成人余暇活動の基点の一つとしての、区立通所施設の活用。 将来の展開としては、地域住民と共同イベントを区立施設を活用して実施。</p>
		<p>(区担当課) 新たな団体と施設との調整を行ったうえでプログラムの提供を行い、課題を整理した上で「土日の施設開放」の障害者施設ならではの有効的な活用を目指す。</p>
5 その他		<p>特定非営利活動法人にじのこ</p>
<p>*提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p>		

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

<p>6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など</p>	<p>(1) 昨年度の協働事業の効果・実績</p>	<p>令和4年度に、「世田谷区立砧工房」と「世田谷区立千歳台福祉園」「世田谷区立九品仏生活実習所」「世田谷区立すまいる梅丘」において、計16回のプログラムの実施をした。プログラムの内容は、「フラワーアレンジメント」「ヨガ講座」「アート講座」「交流会」等をそれぞれ複数回。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数は延べ240人。 ・施設管理面では、食品を扱っている施設の衛生面、セキュリティに配慮し、各部屋に鍵を取りつけた。施設の作業の支障になるような問題は特に起きなかった。 ・参加者からはとても楽しかったという評価を頂き、余暇活動に対する期待を感じた。 ・障害があっても働く以外の時間の充実も必要なことであることがより明確になってきている。 ・実施する場所が自宅から1時間以内にあるのが行きやすいという参加者の回答は、今後、事業を実施する施設を選択する際には基本としておさえておくべきことである。 ・前回の目標は、施設の開閉を団体で行い、鍵の受け渡しや開閉はクリアできたと考える。 ・細かい設問のアンケートを実施することにより、本人たちの余暇活動に対する期待を感じることができた。楽しかった、また参加したいという声は、私たちの励みになった。 ・次年度のために、本人たちからのアンケートはとても有意義であった。 ・プログラムの多様性は大切に、運動系の余暇活動が多い中、屋内でやれるプログラムはとても喜ばれたと思う。
	<p>(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など</p>	<p>① 新しい施設での事業実施 今年度の実施場所としては、世田谷福祉作業所と給田福祉園を使用することで3年目としての課題を探る。 どの施設で実施しても、共通の課題とその施設ならではの課題があると思われるので、アンケート2年目の実施により、更に詳しく課題と利用者のニーズの抽出を図る。</p> <p>② 新しい団体による事業実施 ・民間施設を活用経験がある団体が、また新たに区立施設を活用することで違う視点での意見の共有ができる。</p>
	<p>(3) 協働事業を継続する理由</p>	<p>それぞれの区立施設に様々な課題があり、継続し違う施設を活用していく中で、さらに課題抽出に努め、「土日の施設開放」の障害者施設ならではの有効的な活用を目指す</p>

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
令和5年6月	会場、下見・打合せ イベント内容ごとのスタッフ・必要物資/機材の調整 チラシ/広報の準備 プログラム①講師・スタッフ打合せ
7月	プログラム①チラシ作成～配布
8月	プログラム②講師・スタッフ打合せ
9月	プログラム①実施～振り返り プログラム②チラシ作成～配布
10月	プログラム②実施～振り返り プログラム③講師・スタッフ打合せ
11月	プログラム③チラシ作成～配布
12月	にじのこイベント打合せ・チラシ作成
令和6年1月	プログラム③実施～振り返り
2月	にじのこイベント実施～振り返り

事業収支予算書

【収入】

費目・内容	金額(円)	積算内訳
補助金	500,000	
合計	500,000	

【支出】

費目・内容	金額(円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	① 創作アート	40,000	40,000	① 創作アートの当日スタッフ(準備・撤収、参加者アート活動のサポート、等) @10,000×4人 ② 音楽プログラムの当日スタッフ(準備・撤収、プログラム参加のサポート、等) @10,000×4人 ③ 室内スポーツの当日スタッフ(準備・撤収、スポーツ参加のサポート、等) @10,000×4人 ④ イベントの運営スタッフ @10,000×5人 ⑤ 全8回(@2,350円×5人×8回)
	② 音楽プログラム	40,000	40,000	
	③ 室内スポーツ	40,000	40,000	
	④ にじのこイベント	50,000	50,000	
	⑤ 実行委員会	94,000	94,000	
	[小計]	264,000	264,000	
報償費	① 創作アート	10,000	10,000	① 臨床アート専門員講師費用 @10,000×1人 ② バンドメンバー(兼、音楽プログラムスタッフ)出演費用 @10,000×5人 ③ 室内スポーツ講師費用 @10,000×1人 ④ イベント講師費用@10,000×5人
	② 音楽プログラム	50,000	30,000	
	③ 室内スポーツ	10,000	10,000	
	④ にじのこイベント	50,000	50,000	
	[小計]	120,000	12,000	
消耗品・備品費	① 創作アート用物品	10,000	10,000	① 色画用紙、具材、持ち帰り用梱包材、等 ② 手作り楽器部材、歌詞プリント、等 ③ 点数表、チーム分けグッズ、持ち帰り表彰状、等
	② 音楽プログラム用物品	10,000	10,000	
	③ 室内スポーツ用物品			
	④ にじのこイベント	10,000	10,000	
	チラシ紙代	10,000	10,000	
	[小計]	40,000	40,000	
複写・印刷費	チラシ印刷	10,000	10,000	
	[小計]	10,000	10,000	
郵送・広告・保険料				
	[小計]			
使用料・賃借料	① 音響機材賃借量	40,000	40,000	
	[小計]	40,000	40,000	
交通費	各プログラム 講師・スタッフ交通費	26,000	26,000	@1,000円(往復)×26人

[令和5年度提案型協働事業 様式]

	[小計]	26,000	26,000	
その他				
	[小計]			
合計		500,000	500,000	

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費（団体等の日常運営の人員費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等）は対象外です。

団体の概要

団体名	特定非営利活動法人 わんぱくクラブ育成会				
所在地	世田谷区代田 2-20-6		電話番号	03-6450-8229	
			FAX	03-6450-9489	
代表者氏名	宮本 実		役職	理事長	
事業責任者 ※住所、電話番号・ FAX、Eメールは 公開しません。	氏名	岩橋 信之		役職	施設長（ひかり）
	住所				
	電話番号				
	FAX				
	Eメール				
設立年月 (活動開始年月)	1987年4月（特定非営利活動法人設立：2000年1月）				
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	理事長：宮本 実 副理事長：松田 卓也 理事：原 紀代、金本 英美、義野 貴之、松香 成紀、栗林 進 監事：山口 俊行、久保田 晶子 事務局長：高野 真理 会員数：133				
主な活動分野	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮の必要な未就学児の療育 ・障害のある学齢時の放課後保障 ・障害のある成人たちの余暇活動の場の保障 ・障害のある人たちの生活を豊かにするための様々な支援 ・障害のある人たちの家族の支援をする為の相談支援活動 				
主な活動実績 *行政との協働 の実績を含む。	<ul style="list-style-type: none"> ・1987年 親とスタッフが共同で「わんぱくクラブ」を自力で始める。 ・1992年 東京都社会福祉振興財団より助成金を受ける。 「ひかり」の前身である青年学級の活動を始める。 ・1993年からコンサートを開始。24回にわたり実施。 主な出演者は、ダ・カーポ、南こうせつ、イルカ、上条恒彦、等。 ・1993年から世田谷区の助成金を受ける。 ・1997年 署名運動をして場所を貸してもらえるよう区議会に請願をする。 ・2000年1月 NPO法人設立。 区から場所を借り「第二わんぱくクラブ」開所。 ・2001年 「わんぱくクラブ三軒茶屋」「わんぱくクラブ駒沢」を区の建物を借りて開所。 (2006年9月～タイムケア事業、2013年1月～放課後等デイサービス) ・2004年「生活支援わんぱく」が基準該当事業所となる。その後、2011 				

	<p>年1月から東京都の指定事業者になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2006年 就学前の子どもを対象に「児童デイサービスわんぱく」を始める（2012年度に「幼児グループわんぱく」に名称変更）。 ・2013年 短期入所「はっぴいハウスわんぱく」を開所（2017年7月末で閉所）。 ・2014年 ひかりが日中ショートステイとなる。 ・2015年 「相談支援センターわんぱく」開始 ・2016年 「わんぱくクラブ三宿」開所（2018年3月末で閉所） ・2017年 市民提案型協働事業実施（一回目「20歳を祝う会」） ・2018年 市民提案型協働事業実施（二回目「ひかりフェスタ」） ・2019年 市民提案型協働事業実施（三回目「ひかりフェスタ」）
<p>団体の ホームページ</p>	<p>https:// www.wanpaku-club.org</p>

選定委員からの意見

事業名：障害者通所施設の休日を利用した成人障害者の余暇活動支援

- 成人障害者の余暇活動の支援は非常に大切なテーマであり、行政提案型事業として新たな箱モノを作るのではなく既存の事業所を活用して居場所を作ることはとても有意義な取り組みであると評価できる。
- 提案団体と区担当課が、それぞれの強みを活かして連携することで、今まで週末に行き場所の無かった障害者の方々の楽しみの場として、またご家族のレスパイトにつながる場として、地域の方々も巻き込んで事業が発展していくことを期待する。
- この事業を継続していくためには、個人情報保護や備品管理、衛生管理をしっかりとすることが大事なので、セキュリティ対策等の検証を確実に進めることを望む。